

京田辺校地 開校25周年記念式典・ 同志社京田辺祭2011開催

2011年11月5日、6日に開催した同志社京田辺祭2011(クローバー祭)は、京田辺キャンパス開校25周年記念同志社大学ホームカミングデー、国民文化祭・京都2011とのコラボレーションにより実施した。加えて、東日本大震災の復興支援にも取り組み、学生スタッフを中心に募金活動などを展開した。

京田辺校地開校25周年記念式典は、5日に同志社ローム記念館劇場空間で開催し、山内修一京都府副知事、石井明三京田辺市長、河井規子木津川市長、松本勇笠置町長、稲田進学研都市推進機構常務理事をはじめ多くの来賓にご臨席いただいた。



山田啓二京都府知事、石井京田辺市長からは、学研都市エリアにおける高度な教育、研究の活性化や京田辺市との連携事業など今後ますます本学の役割に期待しているとの祝辞をいただいた。

続いて、同志社京田辺祭学生代表の津戸隆文さん(文化情報学部4年次)の開催宣言で同志社京田辺祭が開幕した。恒例

企画のキッズパレット、移動動物園、100近い出店、スポーツフェスティバル、そして特設ステージでのプロアーティストによる演奏、学生バンド、ダンスサークルの出演、6学部企画に加えて、全国のゆるキャラ大集合など多彩な催しがあり、大いににぎわった。6日には、今出川キャンパスからホームカミングデーに参加された卒業生を京田辺キャンパスへ送るバスを運行した。



国民文化祭・京都2011では、京田辺市主催の「人形劇の祭典」が夢告館でも開催され、多くの観客を集めた。本学の企画として、京都府、ダイキン工業株式会社、大阪ガス株式会社との連携により、「明日の暮らしの文化展」として両日にわたる研究成果等展示会と、6日に「人の健康と活力を引き出す未来技術―こどもたち次世代へつなぐ環境にやさしい未来技術とは」をテーマにパネルディスカッションを行った。基調講演には南川秀樹環境事務次官を迎え、これからの日本の環境政策についてお話しいただいた。

両日共にあいにくの雨模様となったが、延べ20,000人の来場者を集め、盛会のうちに幕を閉じた。最後に東日本大震災復興支援の取り組み

みとして、学生代表の津戸隆文さんと岩村美美佳さん(文学部国文学科1年次)が松岡敬副学長、京田辺祭運営委員会委員長と共に11月18日に福島県庁を訪問し、内堀雅雄副知事に京田辺祭実行委員会からの義援金1,066,715円を届けた。義援金は福島県の中学、高校生の教育支援の一助として活用いただく。内堀副知事からの謝辞に対し、岩村さんから本学学生はいきたいとの強い決意が述べられた。

(京田辺校地学生支援課)

ホームカミングデー 2011開催

2011年度は「卒業生同士だけでなく、卒業生と在学生が集い、語り合う場所をつくる」という趣旨で、卒業生と在学生による実行委員会を立ち上げ、プログラムを全面的にリニューアルした。ただし、同志社らしい企画ということで例年好評の

野点(茶道裏千家金澤宗維氏、1981年文学部卒)やクラーク記念館前記



念撮影などは継続した。

当日の11月6日は雨模様にもかかわらず、約3,000人の卒業生や在学生の参加があり、卒業生には思い出のキャンパスで楽しいひと時を過ごしていただいた。今里滋政策学部教授、浜矩子ビジネス研究科教授、村田晃嗣法学部教授の紫熱教室では、大勢の卒業生が熱心にメモをとりながら講義に聞き入っていた。また、ワンバースカフェでは卒業生と在学生が談笑する姿が見られ、クイズラリーやYYプレイパークには子どもを連れた若い卒業生の参加が多く見られた。

また、立川親方(元関脇・土佐の海、1994年商学部卒)が八田英二学長講演の前にサプライズゲストとして登場し、会場に華を添えた。

なお、2012年度のホームカミングデーは11月11日(日)に開催が決定した。その頃には、今出川・烏丸両キャンパスの新棟が完成しているため、卒業生の皆さまに見ていただきたい。

(校友・父母課)

東日本大震災で被災した 在学生への義援金について

2011年度ホームカミングデー実行委員会の発案により、東日本大震災で被災した在学生への学費支援のための募金と呼びかけられた。ホームカミングデー当日だけでなく、広く協力を呼びかけたと

ころ、趣旨に賛同をいただいた校友会の各
 県の支部や政法会、同経会、樹徳会、理工
 学部同窓会の卒業生団体、スポーツユニオ
 ン、ホームカミングデー音楽祭実行委員会
 などからも義援金をいただくことができ
 た。公表の了解が得られた団体名はホーム
 ページで閲覧可能。

http://www.doshisha-koyunetv/shinsai/pdf/home2011_gienki_homeirokumpdf

2011年11月30日まで募金活動を行
 い、4,421,416円が集まった。多く
 の皆様のご厚意に感謝を申し上げたい。

12月5日に募金の受領の意志表示が
 あった50人の被災学生に対して手紙で報
 告のうえ、それぞれの口座に87,000
 円の振込みを行った。

今回の募金活動を通じて、卒業生の皆
 様が後輩を思う気持ちの強さを改めて感
 じた。

(校友・父母課)

グローバル・コミュニケーション 学部開設記念シンポジウム 開催

2011年10月29日、1年間の留学を
 必修としているグローバル・コミュニケー
 ション学部は開設記念シンポジウム「留学
 の先に見えるもの―世界へ通じる対話力」
 を開催した。

基調講演にはタレントで実業家のダニエ
 ル・カール氏を迎えた。「グローバル時代を



生きる」と
 題した講
 演では、特
 にグローバ
 ル社会で日
 本語を学ぶ
 「難しさ」に
 ついてユー
 モアを交え
 ながら、日
 本文化の特

徴的な謙遜や婉曲表現を例に挙げ語られ、
 聴衆は盛り上がりながらも日々の自分の
 言葉遣いや表現を振り返り、異文化間のコ
 ミュニケーションの難しさを痛感していた。

続いて、ダニエル・カール氏を交えて「留
 学への期待と目的」と題したパネルディス
 カッションを行った。自らも留学経験を持
 つモデレーターの竹田宗継グローバル・コ
 ミュニケーション学部准教授からは、近年
 の日本からの留学生の減少傾向が提示さ
 れ、ポール・カーティグローバル・コミュニ
 ケーション学部助教は、留学が人生にどれ
 ほど大きな影響を及ぼす大切な経験であ
 るかを自身のドイツ留学の体験をもとに
 留学の意義を語った。学部第1期生の3人
 である、留学を間近に控えた英語コースの
 近藤美佳さん、中国語コースの黒岩徹也さ
 ん、また本学での留学1年目の姜有那さん
 も参加し、留学に対する期待と、その経験
 をどのように生かしていくか、グローバル
 市民としてどのように世界へ貢献してい

くか議論がなされた。

(グローバル・コミュニケーション学部
 准教授 吉田優子)

特定寄付奨学金募金協力者 ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難
 になっている学生を援助するために、
 2004年4月から「同志社大学特定寄
 付奨学金募金」を広く社会各界に呼びか
 けています。

2012年1月末までに、卒業生、ご父
 母、一般の方々および教職員から以下のと
 おりご協力をいただきました。

	申込件数	申込額
卒業生 ご父母 一般	53件	6,133,435円
教職員	50件	4,450,000円
合計	103件	10,583,435円

【ご芳名敬称略、順不同】

- 卒業生、ご父母、一般
- 1,000,000円 原見義広
- 900,000円 同志社生活協同組合
- 500,000円 同志社校友会 公益財団法人吉田育英会
- 300,000円 同志社校友会
- 株式会社バンネット・システム 市川 稔晃
- 295,000円 森田 秀夫
- 179,435円 同志社大学ハワイ寮基金
- 100,000円
- ミカド塗料株式会社 鈴木 恭子
- 50,000円
- 三巻新治 今村浩一 塚村康志

- 30,000円
- 大野 左千夫 大坂 岱樹 玉井利宏 川向幹男
- 20,000円 山中光太郎
- 19,000円 同志社45東京クラブ
- 10,000円
- 水谷晴夫 鈴木雄二 豊田俊一 小田邦宏
- 松本邦博 佐藤信夫 武田啄生 水口潔
- 中野拓美 坂井田彰 岩本憲彦
- 5,000円
- 本田肇 大下 信雄 大下真弓 永田尚路
- 【ご芳名のみ(金額非掲載)】
- 広田知大 宮崎道子 高津世紀 小合洋一
- 川村修一 富岡努 奈良光浩 廣澤美智子
- 林青史郎 増山記一
- 1,305,000円(匿名合計) 匿名9名

【教職員】

- 1,200,000円 幅 健志
- 300,000円 三上保孝
- 150,000円 工藤和男
- 120,000円 齋藤憲道 高田紀美
- 100,000円 富田安信
- 60,000円 三好博昭 西川真司
- 50,000円 石田修一
- 45,000円 植村 巧
- 24,000円 今川晃
- 20,000円 土佐卓司 吉川 健
- 12,000円 北幸史
- 【ご芳名のみ(金額非掲載)】
- 兼重雅好 宮庄哲夫 新茂之 越川弘英
- 藤井邦宏 加藤千洋 上田裕保 林克樹
- 高田芳樹 戸田裕之 タリシエミシエル
- 酒井優 白石健治 里内 仁美
- 950,000円(匿名合計) 匿名22名

*教職員の給与控除については2013年度までの申込を受
 け付けていますが、今回は2011年度寄付額2011年
 4月〜2012年3月までの金額を掲載しています。

当募金は継続的に行っていますので、引き
 続き温かいご支援を賜りますようお願い
 申し上げます。

【お問い合わせ先】財務部資金課
 TEL: 075-251-3150
 E-mail: ji-skin@mail.doshisha.ac.jp

新任教員紹介

① 所属(学科/専攻) ② 職名 ③ 主な担当科目
 授業科目を担当する専任教員を紹介します。



川本 哲郎
 (かわもと てつろう)
 ①法(法律)
 ②教授
 ③犯罪対策各論



森口 弘美
 (もりぐち ひろみ)
 ①社会(社会福祉)
 ②助教
 ③ソーシャルワーク演習I



小黒 純
 (おぐろ じゅん)
 ①社会(メディア)
 ②教授
 ③メディア社会論



中川 吉晴
 (なかかわ よしはる)
 ①社会(教育文化)
 ②教授
 ③生涯教育計画論



能登原 祥之
 (のどはら よしゆき)
 ①文(英文)
 ②准教授
 ③英語教育特論(4)



中野 泰治
 (なかの やすはる)
 ①神(神)
 ②助手



山村 則男
 (やまむら のりお)
 ①文化情報(文化情報)
 ②特別客員教授
 ③数理モデル



柴田 悠
 (しばた ぼるか)
 ①政策(政策)
 ②准教授
 ③アカデミック・スキルI



安 善姫
 (あん せんひ)
 ①政策(政策)
 ②准教授
 ③行政管理論



関根 千佳
 (せきね ちか)
 ①政策(政策)
 ②教授
 ③ソーシャル・インクルージョン研究



中野 民夫
 (なかの たみお)
 ①政策(政策)
 ②教授
 ③ソーシャル・ネットワーク研究



寺田 貴
 (てらた たかし)
 ①法(政治)
 ②教授
 ③国際機構論



秋山 いわき
 (あきやま いわき)
 ①生命医科(医情報)
 ②教授
 ③エレクトロニクスI



八坂 能郎
 (やさか よしろう)
 ①理工(機能分子・生命化)
 ②助教
 ③化学実験



山本 大吾
 (やまもと だいご)
 ①理工(化学システム創成工)
 ②助教
 ③化学システム工学実験



水野 吉規
 (みずの よしのり)
 ①理工(機械システム工)
 ②助教
 ③物理学I



道越 秀吾
 (みちこし しゅうご)
 ①理工(環境システム)
 ②助教
 ③物理学I



小山 大介
 (こやま だいすけ)
 ①理工(電気工)
 ②准教授
 ③電気回路学I



富山 一郎
 (とみやま いちろう)
 ①グローバル・スタディーズ(グローバル・スタディーズ)
 ②教授
 ③アジアの中の日本



Peter NEFF
 (ピーター・ネフ)
 ①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
 ②助教
 ③Communicative Performance



渡邊 ひとみ
 (わたなべ ひとみ)
 ①心理(心理)
 ②助教
 ③心理学実験演習



高倉 久志
 (たかくら ひさし)
 ①スポーツ健康科(スポーツ健康科)
 ②助教
 ③ファースト・イヤー・セミナー



谷口 浩章
 (たにくち ひろあき)
 ①生命医科(医生命システム)
 ②助教
 ③生物学



吉川 研一
 (よしかわ けんいち)
 ①生命医科(医情報)
 ②教授
 ③物理学I



藤山 文乃
 (ふじやま ぶみの)
 ①脳科学(発達加齢脳)
 ②教授
 ③研究安全と倫理



児玉 俊洋
 (こだま としひろ)
 ①ビジネス(ビジネス)
 ②教授
 ③ベンチャー企業経営



加登 豊
 (かとう ゆたか)
 ①ビジネス(ビジネス)
 ②教授
 ③戦略管理会計



林 昭一
 (はやし しょういち)
 ①司法(法務)
 ②准教授
 ③民事法演習V



杉田 宗久
 (すぎた むねひさ)
 ①司法(法務)
 ②教授
 ③刑事法演習I



Idris DANISMAZ
 (イディリス ダニスマズ)
 ①グローバル・スタディーズ(グローバル・スタディーズ)
 ②助教
 ③比較社会論(イスラム社会と日本)2



位田 隆一
 (いどの しょういち)
 ①グローバル・スタディーズ(グローバル・スタディーズ)
 ②特別客員教授
 ③国際化する人権と生命倫理



小松 さくら
 (こまつ さくら)
 ①高等研究教育機構および心理学部
 ②特別任用助教
 ③心理学統計法



児玉 祥一
 (こだま しょういち)
 ①免許資格課程センター
 ②准教授
 ③教職概論



Jane A. WARD
 (ジェーン ウォード)
 ①言語文化教育研究センター
 ②助教
 ③プロフェッショナル・イングリッシュB



Alberto MILLÁN MARTÍN
 (アルベルト ミヤン マルティン)
 ①言語文化教育研究センター
 ②助教
 ③スペイン語インテンスイV



石井 香江
 (いしい かえ)
 ①言語文化教育研究センター
 ②准教授
 ③ドイツ語インテンスイI



落合 明子
 (おちあい あきこ)
 ①言語文化教育研究センター
 ②教授
 ③アナリティカル・リーディングI



水谷 健一
 (みずたに けんいち)
 ①脳科学(発達加齢脳)
 ②准教授
 ③神経情報計算論・統計

退職教員 2012年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

- 文学部 村田誠一 教授
- 文学部 塩尻恭子 教授
- 文学部 山口賀史 教授
- 社会学部 千田忠男 教授
- 社会学部 國生壽 教授
- 社会学部 山口功二 教授
- 社会学部 柴内康文 准教授
- 社会学部 樽井康彦 助教
- 法学部 伊藤彌彦 教授
- 法学部 釜田泰介 教授
- 法学部 倉部真由美 准教授
- 法学部 松尾健一 准教授
- 法学部 馬原潤二 助教
- 法学部 坂田雅夫 助教
- 法学部 石川健次郎 教授
- 商学部 向井公敏 教授
- 商学部 英邦弘 講師
- 商学部 山本勝也 講師
- 政策学部 谷口知弘 教授
- 政策学部 妹尾哲志 講師
- 文化情報学部 重定南空子 特別客員教授
- 理工学部 石原好之 教授
- 理工学部 大鉢忠 教授
- 理工学部 田坂明政 教授
- 理工学部 上野正勝 教授
- 理工学部 柳田益造 教授
- 理工学部 舟木治郎 准教授
- 理工学部 木田重雄 教授
- 生命医科学部 土谷佳樹 助教
- スポーツ健康科学部 坂井智明 講師
- 心理学部 加藤正晴 准教授
- グローバル・コミュニケーション学部 Terry DOCHS 准教授
- 司法研究科 深田三徳 教授
- 司法研究科 三井誠 教授
- ビジネス研究科 中田哲雄 教授
- 言語文化教育研究センター 言語文化教育研究センター 木下康光 教授
- 言語文化教育研究センター Timothy James CRAIG 教授
- 言語文化教育研究センター Ignacio ARISTIMUNO 准教授
- 言語文化教育研究センター Linh PALLOS 助教
- 言語文化教育研究センター Justine M.ROSS 助教
- 理工学研究所 宮島一彦 教授

本学教員の執筆図書紹介 図書館調べ(価格は税別)

- 行動分析学研究アンソロジー2010**
武藤崇 青山謙一 他編 星和書店 3,500円
- よくわかる考古学**
松藤和人 他編著 上野篤史 鶴橋裕天 竹居明男 中井義明 浜中邦弘 若林邦彦 他執筆 ミネルヴァ書房 3,000円
- 確認行政法用語2030**
黒坂則子 小谷真理 他著 成文堂 4,000円
- 交通基本法を考える**
青木真美 他執筆 かもがわ出版 1,400円
- ニュー・インノベーション・プロセス**
太田進一 監訳 熊野正樹 他訳 晃洋書房 3,000円
- インサイト管理会計**
河合隆治 他執筆 中央経済社 2,400円
- インサイト原価計算**
河合隆治 他執筆 中央経済社 2,400円
- 日本文化の攻と守**
岸文和 他執筆 風媒社 3,800円
- 国際紛争 原書第8版**
村田晃嗣 他訳 有斐閣 2,800円
- 東アジアの記憶の場**
板垣竜太 他編著 河出書房新社 4,200円
- 企業会計と法制度**
古賀智敏 他編 中央経済社 5,000円
- 全56篇のラテン語訳教集**
中山善樹 訳 知泉書館 8,000円
- 国際法**
新井京 他執筆 東信堂 2,900円
- 国際会計基準を学ぶ**
田口聡志 他著 税務経理協会 1,900円
- パリュエーション**
津田博史 他編 朝倉書店 3,800円
- ビーコンヒルの小径**
本井康博 著 思文閣出版 1,900円
- ディック・ターピンのヨークへの早駆け**
南井正廣 著 英宝社 2,800円
- イーストウッドの男たち**
イマースキュリニティの表象分析
綾部六郎 他訳 御茶の水書房 3,200円
- 日本語の限量表現の研究**
山森良枝 著 風間書房 7,500円
- 「韓国併合100年」と日本の歴史学**
小川原宏幸 板垣竜太 他執筆 青木書店 4,000円
- リテール金融マーケティング**
戸谷幸子 著 東洋経済新報社 2,200円
- アメリカ留学への招待**
中村聡子 他著 世界思想社 1,800円
- 基本講義 労働法**
土田進夫 著 新世社 2,800円
- ビジュアル・コミュニケーション**
井上野聖 他著 北大路書房 1,600円
- 1からのマーケティング分析**
富田健司 他編著 碩学舎 2,400円
- 1からの戦略論**
富田健司 他執筆 碩学舎 2,400円
- 初歩から学ぶ経済入門**
篠原総一 野間敏充 他著 有斐閣 2,800円
- スपोर्ट六法 2011**
川井吉司 他編 信山社 2,500円
- テキストデータの統計科学入門**
金野哲 著 岩波書店 3,600円
- アメリカ合衆国の形成と政治文化**
岩波本男 他編著 昭和堂 2,800円
- 高付加価値エンジニアが育つ**
中田善文 他編著 藤本哲史 他執筆 日本評論社 1,900円
- 国際ビジネスコミュニケーション**
亀田尚己 他編著 丸善 2,300円
- ディケンズ鑑賞大事典**
玉井史絵 他執筆 南堂堂 2,000円
- 法学部生のための選択科目ガイドブック**
本下考治 他執筆 ミネルヴァ書房 2,800円
- これから学ぶスポーツ心理学**
石倉忠夫 他執筆 大修館書店 2,000円
- 物理化学 第2版**
近藤和生 上野正勝 他著 朝倉書店 3,200円
- 抗加齢医学入門 第2版**
米井雅 著 慶應義塾大学出版会 4,000円
- 財務会計論 第5版**
松本敏文 他編著 中央経済社 5,200円
- 財務会計論 第5版**
松本敏文 他編著 中央経済社 4,400円
- 紫式部と和歌の世界**
廣田収 他編 武蔵野書院 1,500円
- 労働六法 2011**
土田進夫 他執筆 旬報社 3,000円
- 新秩序の模索**
板垣竜太 他著 岩波書店 3,300円
- 物語絵・歌仙絵を考える**
岩坪健 他著 武蔵野書院 3,000円
- 持続可能な地域実現と協働型ガバナンス**
新川達哉 他編著 新川達哉 他監訳 日本評論社 3,000円

新島旧邸の開館日・見学方法の変更について



2013年NHK大河ドラマ「八重の桜」放映に伴い、開館日、見学方法が一部変更になります。変更の概要は次のとおりです。

1. 変更期間
2012年9月から2013年12月まで
 2. 上記期間中は、原則として、毎週火曜日を除く毎日の開館となります。
休館日：毎週火曜日、年末年始(12月28日～1月5日)、夏期(8月12日～16日)
 3. 見学は母屋1階と附属家となります。
 4. 個人・団体ともインターネットによる予約申込制となります。(インターネットが使えない場合はFAXでの申し込みとなります。)
- 詳細は、校友メールマガジンや本学ホームページにて順次お知らせいたします。なお、東日本大震災復興支援への義援金を検討中です。

お問い合わせ先

同志社社史資料センター
TEL: 075-251-3042
FAX: 075-251-3055
E-mail: jishasi@mail.doshisha.ac.jp

Life takes us on unexpected journeys. When I was growing up in California, I never once thought that I would travel to Japan and attend a Japanese University. But through the years I feel as though I was drawn here. In Japan there are different words for destiny, the kind you can change and the kind set in stone. I feel as though my destiny, to attend Doshisha, was inevitable. My early practice of Karate and love of sushi may have opened my interest in Asia, but the decision to live in Japan seems to have been made for me, and even now when asked why I decided to come here, I can only answer, because Japan called me. The calling was

人生でわれわれは予想できぬ旅に出る。私はカリフォルニアで生まれ育ったが、日本に行き、日本の大学に通うということは全く想像もなかった。けれど今となっては、引き寄せられたように感じている。日本では「運命」という言葉には異なる意味が含まれる。人が変えられない運命と変えられる運命。自分が同志社に来るという運命は避けられないものだったようだ。幼い頃からの空手の稽古や寿司好きはアジアに興味を持つきっかけとなったと思うが、日本に住むようになったのは、私に決められていたことだと思う。今、どうして日本に来たのかと聞かれたら、私は日本に呼ばれたとしか答えられない。その呼び声があ

strong, and I have not once wished to be anywhere else.

My years at Doshisha University have been a great learning experience for me. The year and a half I spent at Imadegawa campus was influenced by Doshisha's internationalism, which draws people from all parts of the globe. Now at Kyotanabe campus I am expanding my knowledge of Japanese and working with students from China and Korea. With the knowledge and skills I develop at Doshisha, I believe that I can attain my goal of becoming a diplomat, and making a contribution to the international society professionally.

Devries Pieter Mackenzie

まりにも強かったので、他のどの国にも住みたいと思わないほどだ。

私の同志社での数年間はとても良い経験となっている。今出川キャンパスでの1年半で同志社の国際主義に感化された。現在は京田辺キャンパスで日本に関する視野を広げ、中国や韓国の留学生と勉強している。同志社で学ぶ知識や能力を活かして、私の夢と掲げている外交官の仕事に就き、国際社会に貢献したい。

デブリーズ ピーター マッケンジ

2011.4 ～グローバル・コミュニケーション学部日本語コースに在学
(2011.3留学生別科修了)(USA出身)



同志社人
訪問

株式会社 カメラータ・トウキョウ 代表取締役会長

井阪 紘さんに聞く

インタビュー
好村 塁さん
〔社会学部教育学科3年次生〕



好村 ●「カメラータ・トウキョウ」という社名はどのような意味なのでしょう。

井阪 ●カメラータとは、イタリア語のカメラ、即ち小さな部屋、空間という意味です。写真機のカメラの語源にもなっています。写真機にも使われていて、室内楽を指します。例えば、ザルツブルクの室内オーケストラはカメラータ・ザルツブルクといいます。社名に創業者の名前をつける会社もありますが、私は、自分がいなくても継続して使える社名にしたかったです。それでいろいろ考えて、音楽に關係ある言葉でカメラータと。でもそれだけではどの会社かわからないので、下にトウキョウとつけたのです。

好村 ●制作されているレコードが室内楽中心なのは、そういう理由もあるのですか。

井阪 ●ビクターを退社してこの仕事を始めた1978年から10年間ぐらいは、ほとんど室内楽しか録音していません。きめの細かいハイレベルの室内楽レコードを作りたいというのが私の考えなのです。それに、メジャーレーベルはチャイコフスキーやベートーヴェン、ブラームスといった著名な作曲家の全集を何回も制作しますが、私はそれはしたくない。メジャーレーベルがやっていない録音、特にベートーヴェンやモーツァルトと同時代にいい曲を作っているながら、作曲家としては一流に数えてもらえなかった人たちの作品を世に出していきたいのです。例えば、マリー・アントワネットに気に入られていたデッ

今回の同志社人

井阪 紘さん【1964年 経済学部卒業】

1940年生まれ、和歌山県出身。大学卒業後、日本ビクター株式会社入社。営業を経てクラシック音楽のプロデューサーとして、78年に退社するまでに150枚以上のレコードを制作し、文化庁芸術祭大賞など数多くの賞を受賞。ビクターの親会社・松下電器産業の松下幸之助会長(当時)からもその才能を認められ、退社時には強く慰留された。79年、設立したカメラータ・トウキョウの社長に就任し、レコードとコンサートを統合した新しい音楽事業に取り組み。80年から始めた、日本初のリゾート地での大規模な音楽祭「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル」では、事務局長としてアーティストの招聘など中心的役割を担う。2006年8月に上梓した初の著作「一枚のディスクにーレコード・プロデューサーの仕事」(第19回ミュージック・バンククラブ音楽賞クラシック部門で最優秀著作出版物賞受賞)など、3冊の著書がある。



セック(1760-1812年)という作曲家は、作品がとても斬新で素晴らしい。そういう人たちの楽譜がヨーロッパではまだ見つかりません。どのメジャーレーベルも気がついていないような曲を出していかないと、私たちの仕事は意味がないのです。

好村 ●メジャーレーベルではないということでご苦労もありませんか。

井阪 ●レコード1枚作ったその売り上げで次のものを作らないといけませんからね。会社を始めた年に芸術祭の優秀賞を2ついただいたのですが、その賞金が合わせて60万円。半分はお礼の意味でパー



ティーをしたのですが、残りは次のレコーディングに使わないといけない。そんな状況ですから、賞をもらっても盛大にお祝いをする余裕はないのです。そんなことを積み重ねながら、30数年やって来ました。私はビクターに15年いたのですが、最初は営業で、制作を始めたのは4年ほど経ってから。15年のうち11年くらいしか音楽の現場に関わっていませんから、それと比べてたら3倍の年月になります。その間に1,000枚くらい制作しましたね。

好村●ビクターを辞めて独立されたのはなぜですか。

井阪●当時日本のレコード会社の多くは、外資系子会社でした。ビクターは国内

資本の会社だったのですが、原盤を持たないライセンスビジネスを行っていて、外国の会社に莫大な原盤使用料を支払っていたのです。私はビクターで制作の仕事をやるようになってから、いずれライセンスビジネスは成り立たなくなると思っていました。なぜなら、外国資本の会社は伸びてくると独立してしまうからです。売れてきたら独立して、日本の現地子会社にした方がいいに決まっています。だからこれからは、自社で原盤制作をして世界中にオリジナルのものを売らなければ、音楽産業は成り立っていかないと主張したのですが、理解してもらえませんでした。それなら自分で原盤を作ろうと、会社を

興したのです。

好村●学生時代のことをお聞きしたいのですが、どうして同志社大学の経済学部に入られたのですか。

井阪●高校3年生の時、京都大学の文学部に受かったのですが、行かなかったのです。父に「そんなところへ行っても就職できないぞ」と言われて。一浪して翌年、同志社と故郷の国立大学に合格したので、国立大学に行こうかと思っていたのですが、調べたらグリークラブはあるけれどすごく下手だとわかって。大学生になったらグリーで歌うことは決めていましたから、それならやはり同志社の方が魅力があります。経済学部で真面目に勉強すれば就職先はあるだろうということで、最終的に同志社に決めたのです。

好村●同志社のグリークラブは伝統がありますから。

井阪●私たちの時代は、年間100回く

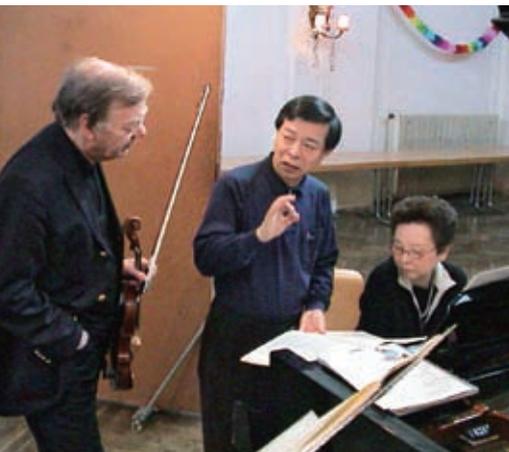


らいコンサートを開いていました。その半分は演奏旅行でした。各地の県人会から呼ばれることが多かったのです。レベルが高かったことも事実ですけどね。その代わり、練習は運動部並みでした。週4日間、1回3時間半、みっちり練習していました。午後はほとんど練習なので、学部はどこだと聞かれて「グリー学部だ」と答える学生がいたくらいです。

好村●それだけグリークラブの活動に打ち込まれていたのですか。

井阪●そうですね。当時は部員が1200人ほどいて、ステージに上がるのは50人くらいですから、競争が激しかったのです。幸い、私は1年次からステージに立たせてもらっていました。昔は簡単に楽器が買えませんでしたから、高いレベルの音楽をやるうと思ったら歌うしかなかったのです。自由に楽器が手に入るようになった今では、合唱なんて一番古くさい手法といわれ

ウェルナー・ヒンク氏(ヴァイオリン)、遠山慶子氏(ピアノ)デュオの録音現場



るかもしれませんがね。けれど、私は合唱をやったおかげで、純正律の耳を鍛えることができました。良い音楽をつくるには必要なことです。今でもオーケストラの演奏を聴いて、誰の音程が違うとか、調弦が合っていないとかわかるのは、グリーククラブでの訓練のおかげです。

好村●ほかに、学生時代の経験で今に活かしていることはありますか。

井阪●私が仕事をするにあたって基準になっているものは、それこそ学生時代の経験しかありません。グリークでは指揮者やれと言われたのですが、ある事情でできなかった。その分、前から勉強したいと思っていた作曲を、個人的に京都市立芸術大学の先生に教えてもらっていました。というのは、グリーククラブの楽曲のために編曲をすることが多かったのです。だから、編曲をするために作曲を勉強しようなものです。それに、アルバイトでテレビCMの曲も作っていました。関西ローカルのCMですが、たくさん書きましたね。育英会

の奨学金が2,000円だった頃に、2万5,000円くらいもらえたのです。でも、帰りには梅田のレコード店で全部LP盤に化けていました。私はジャズがすごく好きで、ほしいLP盤がたくさんあったのです。「真夏の夜のジャズ」という1958年のニューポート・ジャズ・フェスティバルの記録映画などの影響を受け、ジャズの編曲も書くようになりました。その頃に書いたものが100曲くらいあります。当時は、クラシックの仕事をするなんて夢にも思っていませんでした。

好村●京都で学生時代を過ごされたことは音楽プロデューサーに影響していますか。

井阪●人間は、自分の体の中に染みているものでしか解釈できません。その意味から、私は録音の拠点にしているウィーンにできるだけ長くいて、その自然と風土、伝統をできるだけ感じるようにしています。ですが、京都で暮らして感じたことは、世界中どこへ行っても通用すると思っ

ています。私の根底にあるのは京都の美。京都とヨーロッパの美意識を照らし合わせた時、根本的に良いものを理解していれば、通じ合うと思うのです。ヨーロッパへ行っていないからだめだとか、英語が話せないから自信がないなどと考えないでほしい。京都のような洗練された文化のあるところに住んで感じたことは、必ず財産になると思います。

好村●最後に、学生へのメッセージをお願いします。

井阪●人生の目的というのは、仕事を始めてから決まるものなのかもしれません。が、学生時代に最初の志を抱くべきではないかと思うのです。実際にその世界へ入れば、いろんなことを考え、困難にもぶつかるとはありますが、自分は一生をかけてこれをやりたいという志を、学生時代に持つべきです。私の場合、それが音楽の仕事をしたいたいという思いだったのです。

好村●大先輩にとっても貴重なお話を伺うことができました。本日はどうもありがとうございました。

INTERVIEWER

一生をかける「志」を忘れずに進みたい

エネルギーで、何よりプロフェッショナルな気質をすごく感じました。フランクで話しやすいのですが、話の内容は決して軽くありません。一言一言が僕にとってはとても重みがありました。最も印象に残ったのは、学生時代に志を持つべきだということです。今、交響楽団に入っていて、プロを目指しているわけではないのですが、それでも何かしら活動が自分の血となり肉となっていると思うと、自分のやっていることに自信が持てるような気がします。いろんなことを経験された大先輩の話を伺い、気持ちを新たに頑張らなければと思いました。卒業後は、音楽とともに映画の世界にもかかわりたいと希望しています。映画には音楽も大事な要素ですし、すべてがミックスされた総合芸術だと思うからです。井阪さんがおっしゃった志を忘れないように、一生をかける仕事を見つけていきたいです。

好村 墨さん

社会学部教育学科 3年次生

兵庫県川西市出身。中学・高校と吹奏楽部で活躍し、大学入学後は同志社交響楽団でトランペットを吹く。同志社交響楽団は5月、石川県金沢市で開催される「ラ・フォル・ジュルネ・金沢2012」に初参加、演奏予定。自身は2013年同志社交響楽団海外公演実行委員長として、来年3月の公演に向け、就職活動と並行して慌ただしい毎日が続く。

自分の手元に来たものは、喜びに変えていく。仕事とは、楽しいもの。

お客さまの反応がダイレクトに感じられる仕事が多くて、遊園地の運営企画ができる鉄道会社に就職しました。念願が叶って、入社後の4年間はグループ会社へ出向し、ひらかたパークのイベント企画などに携わり、菊人形展を形にしていくなかの一翼を担うなど、良い経験ができました。その後は本社へ異動となり、環境マネジメントシステムのISO14001を取得するために設けられた部署へ。デスクワークは苦手でしたが、必要な仕事なのか疑問に思うこともありましたが、しかし、経営や財務などの業務に携わったことで、それまでにない視点を持てるようになったあの3年間はあったから、今があると思っています。

事務部門にいた当時、企画の仕事に戻りたいと希望し続けていたものの、異動は思い通りにはなりません。そこで、駅や商業施設の空間デザインや演出を自主的に3年間勉強して、商業施設士の資格を取得。他社の商業施設の運営を受託する関係会社の事業が拡充されるタイミングとうまく重なり、現在の部署に配属されました。ワクワクした気持ちで、この会社に出向してきて6年目になります。
ここでは不動産ディベロッパーなどが所

有する建物の価値や収益を上げることが目的に、テナントを入れ替えたり、新規の施設であれば、コンセプトに沿ったテナントを探して誘致し、商業施設をつくり上げていくことが主な業務です。華やかに見えるかもしれませんが、実際は、人脈と足とインターネットで情報収集を行い、まったく初めての相手先へ電話をかけるといったことがほとんどで、時には門前払いされることも。そんなことの繰り返しですが最終的になり、自分たちがつくり上げた施設や誘致してきたテナントにお客さまがたくさん来られて賑わっている様子を見ると、うれしいですね。反応が見えやすいのが、この仕事の良いところ。オーナーの方に「良いテナントを紹介してもらった」と喜んでもらえることにも、やりがいを感じます。昨年からは、海外へも当社のノウハウを提供しようと、ベトナムへネットワークを広げているところ。ベトナムは社会主義国なので、日本企業による現地ビジネスは難しいのですが、新たなビジネスモデルを構築しているよう取り組んでいます。

最近よく思うのは、自分の手元に来たものを自分で望むように加工すれば、喜びに変えていくことができるということ。せつ

かく自分のところに来たものを何もしままま手放してしまうのは、もったいない。運やチャンスがないと嘆く前に、来た球は打ち返さなければ、幸せは生まれません。どんな仕事も厳しいとは思いますが、楽しまなくては損。学生のうちに遊んでおけ」とよく言われますが、社会人になっても、時間は作ろうと思えば作れるし、仕事から派生してくる遊びもあります。何より、新たな刺激をくれる価値観の異なった友人がたくさん増えます。仕事をすることは、楽しいこと。学生時代には知らなかった世界も開けてくるはず。

林 英生さん

【1999年 法学部法律学科卒業】

株式会社京阪流通システムズ 企画開発部 マネージャー

現在の仕事と学生時代に勉強した法律は、直接のつながりはないが、「職務上、法律の大切さはよく感じています。テナントや商業施設と契約書を交わすとき、法律用語の理解も含めて、比較的スムーズにやりとりができるのは、法学部で学んだおかげです」と言う。ゼミでは、イベント係としてゼミ旅行などを仕切っていたというから、その手腕も今の仕事につながっているのだろう。失敗談も聞かせてくれた。「ひらかたパークで冬のイベントを任されたとき、好きなスターウォーズのオークションなどを開催したのですが、これが大赤字。コアなお客さまには喜んでいただけましたが、パーク全体への波及効果はほとんどなく、自分の趣味で仕事をしてはいけないと反省しました」と振り返る。

毎日のように起こる想定外の 素敵な出合いが、日々の私を引っ張っている。

たいと思うものを提案するので、それが形になったときは純粹にうれいすね。

現在、恩田陸さん、万城目学さんといったエンターテインメント系の作家約40人を担当していますが、まだ無名の新人を発掘して育てるのもまた、私の重要な仕事です。当社の文学賞への応募作品の中から処女作を担当することもあれば、書店でまだ当社の担当がついていない作家を探してオフアールすることもあります。新しい才能を見つけ出し、一緒に本をつくり上げていくのは、とても楽しくやりがいがあります。

もちろん、シビアな面もあります。入社し

簡単に言えば、小説の単行本のプロデューサーが現在の仕事です。編集者の仕事は、作家のもとに原稿を受け取りに行き、書き上がるのを待つことと思われるかもしれませんが、それだけではありません。作家と一緒に作品のテーマや内容、タイトルを考えたり、読者の興味を引く装丁をイメージしたり、販売戦略を練ったり、書評などで取り上げてもらえるようプレスにプロモーションをかけたりと、1冊の本の制作にトータルに携わります。そのため、担当する作家や作品のジャンルには、編集者の好みも色濃く出ます。私の場合、自分が読み

て最初に配属された営業部で首都圏の書店を担当した経験から、どんなに良質な本でも売れなければ店頭から消えていくし、人々の記憶にも残らない、売れなければ本としての価値が認められないのだと思い知らされました。当社では、本の出版にあたり編集者の裁量に任されている領域が広いので、重責です。その分、担当した本が増刷されるほど売れた時の喜びは格別ですし、大きなやりがいを感じます。ただ、ベストセラーになつたとしても、「私の手がけました」と自慢する気持ちはありません。編集者は、いわば黒衣です。自分1人でできる仕事

ではありません。たまたま才能ある作家に出会えて、良い作品を書いてもらうことができ、多くの方に知ってもらえ、結果として売れたのであって、本をヒットさせるために自分ができることは、良い作品を本にして、それを応援してくださる方をいかに集めるかといった、一部のことでしかないと思っています。

この仕事をしていると、自分の想像を超える素晴らしい文章に出合うことがたくさんあります。しかも、そういう想定外のことが良くも悪くも毎日のように起こります。そんな素敵な出合いが日々の自分を

引っ張っているような気がしています。

文芸を担当して4年になります。これまでは、すぐに結果を出さなければと思っただけでなく、出版後の展開や作家のキャリア、会社の今後なども含めた広い視野をもって、じっくり考えながら仕事をしたいと思っています。

西 麻沙子さん

【2000年 文学部英文学科卒業】

株式会社新潮社 出版部 文芸第二編集部

同志社中・高から同志社大学へ。幼い頃から本が好きで、1・2年次生の時には、生協の本屋サークルで本を売るイベントなどを企画、小説を書きたいという夢を持っていたが、「小説はいつでも書けるのだから、一度は就職しておこう」と思い、出版社や小さな広告代理店を受けた。新潮社を第1志望にしたのは、総合出版社ではなく、比較的規模の小さい会社だったから。「大きな会社に入るとどの部署で働くのかわからないのは嫌でした。小さな会社の方が、自分が関わることのできる範囲が広いだろうと思ったのです。学生へのアドバイスを聞くと、「やりたいと思ったことは何でも、その時にやってみていいですね。就職のために何かするのはなく、やりたくてやったことの方が結局は自分のためになりますから」と話してくれた。



応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金等は変更されることがあります。

【ボクシング部】

第66回関西学生アマチュアボクシングリーグ戦

会場:関西大学ボクシング場(阪急「関大前駅」より徒歩15分) 入場無料

- 5月13日(日) 11:00～ 対戦校:大阪商業大学
- 5月20日(日) 11:00～ 対戦校:関西学院大学
- 5月27日(日) 11:00～ 対戦校:龍谷大学

【フェンシング部】

第65回全日本選手権個人予選

- 4月13日(金) フルーレ 会場:大山崎町体育館 入場無料
- 5月11日(金) サール 会場:大阪市中央体育館 入場無料
- 5月22日(火) エペ 会場:知多市民体育館 入場無料

第62回関西学生フェンシングリーグ戦

- 4月14日(土)、15日(日) フルーレ 会場:大山崎町体育館 入場無料
- 5月12日(土)、13日(日) サール 会場:大阪市中央体育館 入場無料
- 5月23日(水)、24日(木) エペ 会場:知多市民体育館 入場無料

【ラグビー部】

●5月5日(土) 同志社ラグビー祭

対戦校:慶應義塾大学 会場:京田辺校地ラグビー場

●5月20日(日) 招待試合 対戦校:明治大学 会場:未定

●5月27日(日) 京都ラグビー祭 対戦校:早稲田大学 会場:西京極球技場

学生保健部会 献血・アルコールパッチテスト

【献血】

今出川校地 4月19日(木)10:00～15:30 (明徳館ラウンジ前)

京田辺校地 4月20日(金)10:00～15:30 (ラーネッド記念図書館裏)

【アルコールパッチテスト】※定員に達し次第終了。

今出川校地 4月5日(木)、6日(金)9:00～16:00 (尋真館1階ラウンジ)

京田辺校地 4月3日(火)～6日(金)9:00～16:00 (知真館3号館入口)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3281

京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7435

第30回函館キャンプ参加者募集

創立者・新島襄が1864年に国禁を犯して脱出した地、北海道函館市を5泊6日の日程で訪れます。新島襄の生き方に触れ、人と人とのふれあいの中で自分自身を見つめ直すという趣旨で行われます。学生が主体となって作り上げるプログラムです。

【実施期間】8月14日(火)～19日(日)

※出発前に5回程度のミーティングを行います。

【お申し込み】4月23日(月)～5月25日(金)

【参加費用】29,000円

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※4月18日(水)今出川校地、19日(木)京田辺校地で、それぞれ説明会を開催します。

安中・会津キャンプ参加者募集

創立者・新島襄は安中藩(群馬県)の武士の子として誕生しました。この地は同志社の草創期を支えた湯浅治郎、絶対平和主義を唱えた同志社出身の牧師・柏木義円などの縁の土地でもあります。キャンプでは、安中の新島家旧邸、安中教会など同志社と関係のある場所と人物を訪ね、同志社に連なる私たちのルーツのひとつを学びます。今回は特別に、新島八重の出身地である会津若松も巡る予定です。

【実施期間】9月5日(水)～7日(金)※出発までにミーティングを数回行います。

【募集人数】15人程度

【参加費用】20,000円程度

【説明会】

京田辺校地 5月11日(金) 13:30～
キリスト教文化センター講座室(夢告館西隣・キリスト教文化センター内)

今出川校地 5月18日(金) 17:00～
キリスト教文化センター集会室(クラーク記念館1階)

【お申し込み・お問い合わせ先】

今出川校地キリスト教文化センター TEL:075-251-3320

京田辺校地キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

ROOM記念館プロジェクトメンバー募集!

同志社ROOM記念館では、毎年、様々なテーマでITやデジタルコンテンツの制作、活用をめざす1年間のプロジェクトが活動しています。現在、本年度採択されたプロジェクトに参加するメンバーを募集しています。

同志社大学・女子大学の学生を中心に、学部学科を越えた多様なメンバーで構成されたプロジェクトチームによる活動だから、刺激も学びもいっぱい。5月には、プロジェクトメンバーを対象にした適性検査やワークショップなど、活動のスタートをスムーズにするためのプログラムも用意しています。プロジェクトの一覧やメンバー申込票のダウンロードは、ROOM記念館ホームページ(<http://rohmdrm.doshisha.ac.jp/>)からどうぞ。

●メンバー募集に関するイベント

4月3日(火)～6日(金)10:00～15:00 「プロジェクト説明会(個別対応)」

4月19日(木)17:00～19:30 「スタートアップ報告会・交流会」

4月23日(月)～25日(水)17:00～19:00 「プロジェクト個別説明会」

4月24日(火)18:00～19:00 「プロジェクト交流会」

会場はいずれもROOM記念館内。くわしくはWebサイト、広報誌をご覧ください。

【お問い合わせ先】

京田辺校地総務課(ROOM記念館事務局) TEL:0774-65-7800

E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp



障がい学生支援制度 サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)の立場に立って、責任を持って支援活動に取り組んでくださる方を募集しています。初めてでもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳・ノートテイク・ビデオ字幕付け・代筆・車椅子介助などの活動にご協力ください。謝礼をお支払いいたします(880円/時間)。その他イベントも充実しています。詳しくは障がい学生支援室HP(<http://challenged.doshisha.ac.jp/>)で随時お知らせしています。

【お申し込み・お問い合わせ先】

京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室 TEL:0774-65-7411

今出川校地学生支援課 障がい学生支援室 TEL:075-251-3273

E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp

今出川校地・京田辺校地 キャンパスツアーガイド募集

キャンパスツアーは、研修を受けた同志社大学の在学生在が、受験生や一般の方とともにキャンパスを巡りながらガイドし、同志社大学の魅力を伝える仕事です。普段あまり入ることがない重要文化財や研究施設の紹介、また、建学の精神を伝えることを通して「母校同志社」の新発見にもつながります。キャンパスツアーガイドは、授業の合間を利用したアルバイト(時給880円)としても魅力です。主に履修する校地が今出川・京田辺のいずれかは問いません。積極的にご応募参加ください。

※ガイドする校地と主に履修する校地が異なる場合は、交通費が支給されます。

【お問い合わせ先】

今出川校地 (株)同志社エンタープライズ継志館事務局 TEL:075-251-3043

京田辺校地 京田辺校地総務課 TEL:0774-65-7010

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しております。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受付中です。

【対象】一般・他学生(本学学生・教職員は対象外) 【会費】無料

【特典】寒梅館イベント情報の郵送(希望者のみ)、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント(抽選)・入場料割引、学生団体による公演・お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引 etc.

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

2012年度「同志社大学キャンパス フェスタ」& 「同志社フェア in 風間浦」

今年も、下記の日程で「同志社大学キャンパスフェスタ」を開催し、校友の皆さま、在学生のご父母、受験生などとの交流を行います。内容は、八田学長による大学紹介、講演会、キャリア支援や入試に関する説明など盛りだくさんです。皆さまの参加をお待ちしています。

開催地	開催日	会場
栃木 (宇都宮)	7月8日(日)	コンサレー(栃木県青年会館) JR宇都宮駅 バス約15分
福岡 (北九州)	7月14日(土)	西日本総合展示場 新館 JR小倉駅 徒歩5分
愛知 (名古屋)	10月8日(月・祝)	名鉄グランドホテル JR名古屋駅 直結
青森	10月14日(日)	青森グランドホテル JR青森駅 徒歩2分
	※「同志社フェア in 風間浦」(青森県下北郡)も同時開催! 10月13日(土)会場:風間浦中学校 「新島襄寄港の地碑 碑前祭」などの多彩なプログラムを実施	
香川(高松)	10月20日(土)	アルファあぶなきホール JR高松駅 徒歩8分
東京 (秋葉原)	11月18日(日)	秋葉原UDX (GALLERY, CONFERENCE) JR秋葉原駅 徒歩2分
鳥取 (米子)	11月23日(金・祝)	米子コンベンションセンター Big SHIP JR米子駅 徒歩5分

詳細はHP(http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/c_festa.html)
【お問い合わせ先】 校友・父母課 TEL:075-251-3009

新入学生対象 フレッシュヤーズキャンプ2012参加者募集!

同級生、上級生&教職員スタッフとふれあう1泊2日。
【日程】4月21日(土)~22日(日) 【定員】80人(学部新入学生対象)
【場所】同志社びわこリトリートセンター
【申込期間】4月3日(火)~13日(金) ※先着順
3月に郵送されている申込書に記入の上、両校地いずれかの学生支援課へ。定員になり次第、受付を終了します。
【お申し込み・お問い合わせ先】 京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7021
今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

新入学生歓迎特別講演会

各界で活躍中の方をお招きし、学生生活を送るにあたっての温かいメッセージを頂戴します。
●名越康文氏(精神科医・京都精華大学客員教授)
【日時】4月20日(金)14:00~15:30 (13:30開場)
【場所】寒梅館ハーディーホール
【テーマ】「心とココロをつなぐコミュニケーション術」
●菊地幸夫氏(弁護士)
【日時】4月23日(月)13:00~14:30 (12:30開場) 【場所】多目的ホール
【テーマ】「~出会いの人生から学んだこと~」
※入場無料、在学生の入場可
【お問い合わせ先】 今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7021

新入生歓迎 「同大生のしゃべり場」

5月は、入学して約1カ月が経ち「大学ってこんなものかな」と中だるみしてしまいがちな時期です。しかし大学にはまだまだ皆さんの知らないことがたくさんあります。そこで、他学部の学生や先輩たちと一緒に豚汁や炊き込みご飯を作りながら話をする中で、これからの大学生活の目標になるような何かを探しませんか。2年次生以上の学生も参加します。当日は汚れてもよい服装でご参加ください。
【日時】5月12日(土) 13:30~
【募集期間】4月16日(月)~当日まで(飛び入り参加も可)
【集合場所】京田辺校地多目的ホール 【参加費】無料
【お問い合わせ先】 京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7021



FLAT bふらっとプログラム

京田辺校地ハローホール(多目的ホール)では、コンサートや映画上映などの文化プログラムを行います。

【会場】京田辺校地ハローホール

【料金】入場無料

- 4月26日(木) 映画上映「はやぶさ」12:30~15:15~/18:00~ 3回上映
 - 5月9日(水) 邦楽女子コンサート「ニッポンガールズ」17:15~
 - 5月28日(月) bコンサートプレミアム「アンダーグラフ」ライブ&トーク 17:15~
- 【お問い合わせ先】 京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7413



WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員はすべて無料

- 4月19日(木) 映画上映「真昼の暗黒」10:30~/14:00~/17:45~
1956年/日本/122分/監督:今井正/原作:正木ひろし/
出演:草薙幸二郎、松山照夫、左幸子ほか
*一般1,300円/Hardience会員・他大学生・前売り1,000円
*16:15~浅野健一氏(ジャーナリスト、同志社大学社会学部メディア学科教授)によるトークあり
- 4月26日(木) 映画上映「100,000年後の安全」15:00~/18:00~
2009年/デンマーク、フィンランド、スウェーデン、イタリア/
79分/監督・脚本:マイケル・マドセン
*入場無料

【お問い合わせ先】 今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週木曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。



CLOVER THEATER クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します(デジタル上映)。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【料金】入場無料

- 4月17日(火)《冤罪/無実 という罪》
17:00~「第3逃亡者」監督:アルフレッド・ヒッチコック
18:30~「アルチバルド・デラクルスの犯罪的人生」
監督:ルイス・ブニエール
- 4月24日(火)《今だから観ておきたい 原発映画特集》
17:00~「原発、ほんまかいな?」監督:鈴木敏明
18:30~「こんにちは真泉(ごんりゃお)」監督:チェ・スーシン

【お問い合わせ先】 今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週火曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体4月~5月の活動予定—

【新町別館小ホール】

- 5月4日(金・祝)~6日(日) 第三劇場「新入生歓迎公演『凶器倶楽部』」
4日(金・祝)18:00~、5日(土・祝)14:00~/18:00~、6日(日)14:00~
学生 当日600円、前売り500円
5日は一律500円、新入生は無料

詳細は劇団HP、Twitter(@sangeki303)等をご覧ください。

【京田辺校地ハローホール】

- 4月18日(水) 喜劇研究会「お笑いライブ」 12:30~ 無料
- 【学外】
- 5月4日(金・祝)・5日(土・祝) 交響楽団「ラ・フォル・ジュルネ金沢2012」
9:30~10:45 1,000円

石川県立音楽堂

別ステージで伝統芸能「能」と交響楽団弦楽の共演企画も予定しています(詳細未定)

5カ国の聴覚障がい学生が集う研修会に参加 「障がいとまっすぐ向き合い、「伝える」ことの大切さを学んだ」

生まれながらの難聴ですが、小学校から健常児と一緒に学級で勉強し、野球やサッカーなどのスポーツもやりました。今思えば、自分自身を聴覚障がい者だとあえて考えないようにしていたように思います。補聴器をつけると静かな場所であればある程度普通に会話することができたため、皆と同じと考えると安心感が生まれ、居心地が良かったのです。ですが、僕自身にとっては、それこそが克服しなくてはいけない課題だったので。そう気づいたきっかけが、2010年夏、イギリスで行われたPEN International 夏期リーダー研修への参加でした。

日本、アメリカ、中国、ロシア、フィリピンの5カ国から選ばれた聴覚障がい学生が集まり、聴覚障がい者として社会にアピールしていくためのスキルを学ぶことを目的に、聴覚障がい者のための国際大学ネットワーク(Postsecondary Education Network International)が実施している研修会です。各国4人ずつが参加し、イギリスで約1週間、それぞれの国で聴覚障がい者が置かれている現状や障がい者自身が抱えている課題、必要とされるリーダーシップなどについてディスカッションしました。コミュニケーションのツールは主にASLという国際手話でしたが、僕はそれまで手話はほとんど使ってきませんでした。手話を使うより近づいて話した方がわかりやすいからです。

しかし、各国の聴覚障がい学生と議論する中で、自分自身の障がいに対する向き合い方が変わ

りました。研修では障がいがあることによる制約や限界よりも、いかに人と向き合っていくかが主題でした。そこで学んだのは、障がいがあることを含めて自分の意思をきちんと伝え、お互いが理解し合うことでコミュニケーションはスムーズになるということでした。例えば、自分が聞こえなくて返事ができなかったとしたら、相手は僕が無視したと誤解し、不快感を抱くこともあります。そのために良好な関係が台無しになってしまうのは、障がいがあること以上に自分にとって困ることなのだから、自分の障がいや人に伝えることは必要なのだと思いついたのです。以前は聞き返すのが恥ずかしくてあやふやなままにしていることもあったのですが、研修に参加してからは、正確なコミュニケーションを意識するようになりました。妥協せず分かるまで聞き返すようになったので、難聴が悪化したのではと家族が心配したほどです。

研修ではまた、目標を定めて絶対にあきらめないこと、目標をいかにして叶えるかということも学びました。今一番近いところにある僕の目標は、同志社エコプロジェクトの、環境活動の活性化を推進する「E_pio」というチームで、メッセージを発信するためのサイトを立ち上げること。将来の夢であるシステムエンジニアになるためには、人と一緒に取り組む必要があると研修で感じ、その楽しさも知ったことが、「E_pio」に参加したきっかけとなりました。得意なプログラミングを活かせるシステム開発に携わり、今春のサイトオープンを目指しています。

丹後偉也さん
【理工学部情報システムデザイン学科
3年生】

